

間は最近悪性腫瘍手術や種々再建術が多いため、5時間を越える長時間麻酔症例が増加傾向にあり、これらの症例には昭和61年から低血圧麻酔を適応し良好な結果を得た。最近は手術侵襲の大きい症例の中でICUを使用した術後管理を行う症例もあったが、麻酔中や麻酔後に全身麻酔が原因と思われる重篤な合併症は皆無であった。

演題25. 歯科外来観血処置を必要とした虚血性心疾患の検討

○中里 滋樹, 岡村 悟, 水間 謙三*
藤岡 幸雄*, 涌澤 玲児**

岩手県立中央病院歯科口腔外科
岩手医科大学歯学部口腔外科学第一講座*
岩手医科大学医学部麻酔学講座**

歯科外来観血処置を必要とした75症例の虚血性心疾患患者を対象として術前評価のためマスターズテストを基本とした重症度分類を作成、適応させ本分類の有用性、脈波・コロトコフ音記録計による術中、術後の循環動態の変動などについて検討し、以下の結論を得た。

1. 脈波・コロトコフ音記録計によるモニタリングにより、冠循環の状態を即座に把握することが可能で、心疾患患者に有効と考える。
2. マスターズ陽性群の心疾患患者にFLUNITRA-ZEPAM 静脈内鎮静法を応用し健全者の鎮静群とRPPの比較したが、術中心疾患患者群のRPPが減少し静脈内鎮静法の有用性がうかがわれた。
3. 本重症度分類の適応により、疾患の重症度の把握のほか、入院下管理や精神鎮静法の適応基準を術前に知る事が可能となった。